

和歌山の季節と僕

レーダラ・フィリップ

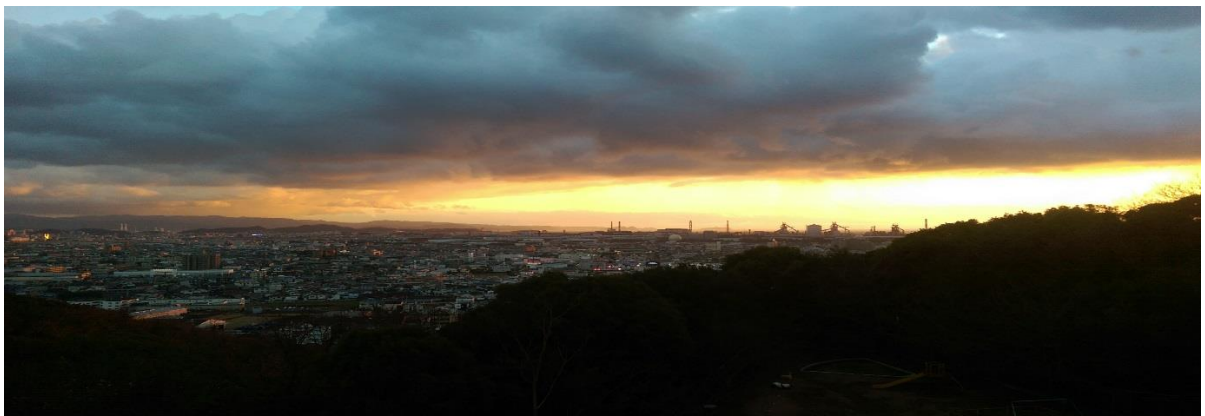
日本語・日本文化研修留学生 オーストリア

僕は子供の頃から日本にすごく興味があって、16歳の頃から日本に留学する夢をもっていました。僕は一生懸命に頑張って、文部科学省の奨学金を受けるようになりました。しかし、希望大学はどうすればいいか分かりませんでした。関東のいろいろな所に行ったことはありましたので、関東以外のところを知りたいと思うようになりました。当時、和歌山市で医学を勉強しているペンパルがいて、その友達をよく和歌山県の写真を送ってくれました。結局あまり知られていない和歌山大学を選んだ理由は、その友達のお陰だとも言えるでしょうか。

関西空港に着いた時、初めてだったのになんだか親しい感じがしました。秋の蒸し暑い空気を深く吸って、日本の匂いがするなと思いました。

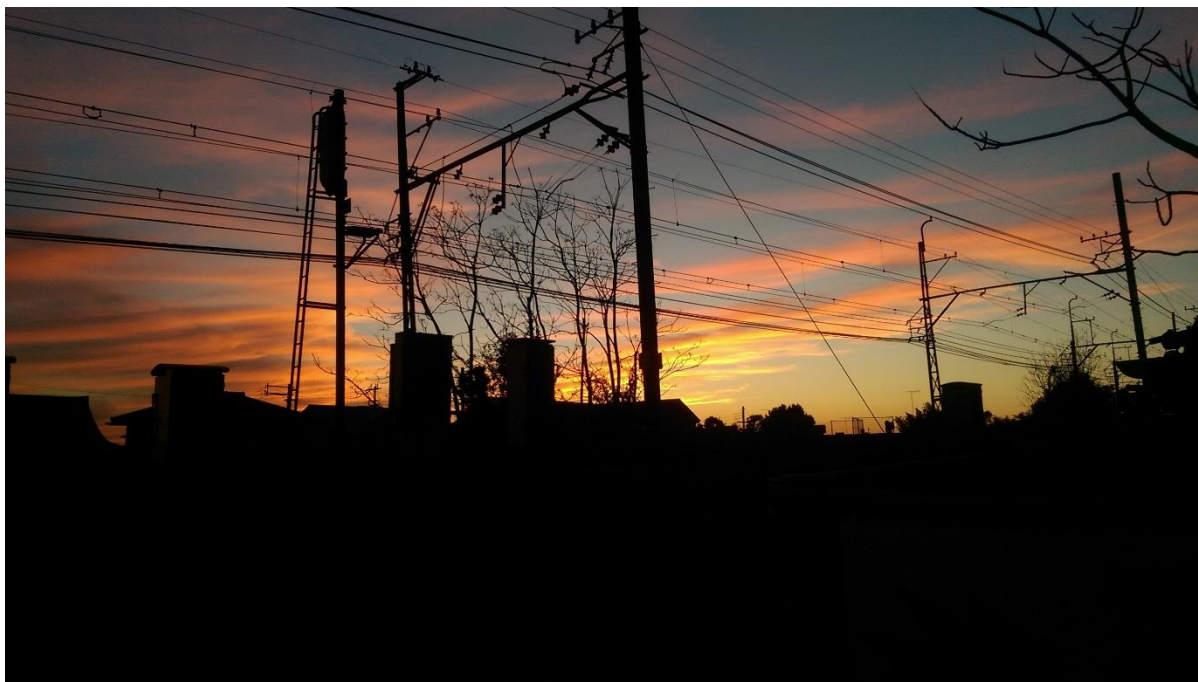
空港から和歌山市の中央までに行くバスに乗り、和歌山駅でバスを降りたら周りの人の日本語が変なことに気付きました。しかし、後になって、その日から住むことになっていたアパートには行って初めて新しいルームメイトと話した時に、和歌山の日本語は今まで聞いていた日本語とかなり違っていると分かりました。ちょっと話したら、分からないところがあっても、その変な日本語だけではなく、ルームメイトたちもすぐに気に入りました。

僕が和歌山市について受けた第一印象を説明するのは簡単なことではありません。東京や横浜みたいな日本の大きな町しか知りませんでしたので、和歌山は日本の見たことのない側面でした。気持ちいい秋の風が吹いていましたのに、意外と暑かったです。摩天楼はあまりありませんでしたが、あちらこちらにヤシの木がありました。特にふじと台という大学の近所は僕にとって日本らしくなかったです。すべての建物は赤や茶色で、あちらこちらにヨーロッパ風の柱や石像が置かれていました。Medici という公園も日本よりイタリアの雰囲気がありました。実は、僕はちょっとがっかりしました。それに対して、僕たちのアパートのバルコニーから見える景色に大変感動しました。低い山に囲まれている和歌山市が全部見えます。天気の良い日は町の西に海が見えて、その上にとってもきれいな夕日がよく見えます。僕はこの景色が今になっても大好きです。



思ったより小さい和歌山大学も特別な印象を付けました。

和歌山での最初の一か月、あちらこちらを散歩をしながら、大学の周りを知ろうとしました。その時、いろいろなきれいなところを見つけました。その一つは、大学の近くの坂道を下がったら見られる、伝統的な家に囲まれている小さな踏切です。僕もあまり分かりませんが、その踏切と古い建物の上の夕方の太陽は僕にとってなんだかとても日本っぽい雰囲気がするのです。今でも、友達とレストランからの帰り道の途中でこの近所を通ると、和歌山を選んでよかったなと思ってしまいます。



和歌山の冬は短くて、オーストリア人にとってけっこう暖かかったです。それでも、雪が降りました。それは和歌山出身の友達によると珍しいことだそうです。僕は和歌山の雪を見られてよかったです。

春はたぶん僕の一番楽しみにしていた季節でした。日本で実際に花見を体験することは昔からの僕の夢でした。日に日に、だんだん膨らんでゆく桜を見て、日に日に、日本人が桜を愛する理由がもっと分かるようになりました。特に和歌山城の周りの背景は見たことのない色の爆発してるような印象を受けました。しかし、桜だけではなく、それぞれの家の庭の花も咲きはじめました。歩く途中で急に止まって、周りの自然に見惚れることがよくありました。

今はだんだん夏になってゆき、日々暑くなっていきます。僕はよく自転車で海に行って、友達と一緒に遊んだり、海で泳いだりして日常生活を楽しんでいます。大学でとても忙しくても時々はまるで休みのようです。僕は後4か月和歌山にいて、夏はこれからどうなるのだろうかを楽しみにしています。時々東京みたいなにぎやかな所に行きたくなっても、和歌山に留学することになって幸いです。ここで大切な友達や大切な所や大切な思い出を見つけることができ、この和歌山での留学は一生忘れられない思い出になりました。